

異文化と

心通わせ

(109)

村田 佳子

一昨年、高熱が続き初め入院しました。結核やマラリアなど感染症にかかる外国人に付き添つてその病院を訪れることが度々あったことから「念のため一通り検査しましょう」ということになったのです。結果、風邪だったとわかりました。私が初めての入院

生活となつたその間、こんなことがあります。4人部屋の病室には私のほか3人のおばあちゃんがいました。夜になると隣で眠るおばあちゃんのいびきが気になり、なかなか寝付けなかつたのです。朝になって検温に来た看護師さんにそのおばあちゃんは「全然眠れなかつたからずっと起き

てた」と話していたのです。これには思わず笑つてしまいまし

た。

「いびき」は世界共通のようですが、西アフリカの男性が「相談がある」とやつきました。腕の手術のために入院した際、一通り入院に関する説明を終えた

後、「1つだけ心配事がある」と前置きし、看護師さんに「自分のいびき」という英単語(snore)を思い出せず、私にそれを伝えるために「寝ている間にこういう音を出してしまう」と言いながらガフガフと膝の上に鼻を鳴らし説明していくと、普段は一人部屋に滞在しているもの、研修の一環で農家の方のお宅に泊まることに

なり、同僚と同室で眠るを訪ねると彼の姿はありませんでした。別の部屋をかけるのではないかと

移っていました。看護師さんが私のところに



やってきて「ほかの方かにつけるグッズが販売されており、枕の高さを調節したりするなどという方法もあるようです。

みません」。移った部屋を訪ねると、個室かと思

定期的に診察に来る耳鼻科の先生に診てもらつた。そのときは心配だったらどうかと勧めました。腕の手術のためパキスタン人の男性に

も似たようなことがあります。退院を控えた彼が「ほかの人も(いびき)すごいです」といふんです。

かたから安心して寝た」と笑つたのが印象的

です。

眠っている間のことは

分からないものです。私も子供のころから寝言が多いようです。鶴岡で講演をさせていただいた日の前夜など「初めてまし

ないで」と笑ってくれました。手術終えた午後、彼が眠る病室に向かうと廊下でグワード音が聞こえてきました。彼のいびきでした。看護師さんも「よく寝つてますよ」とおっしゃってました。そう考みると、本当にたかもりしません。(鶴岡市出身、コ



寝つっているときのことまでは…